



■大字の由来

ひかちむら
旧日勝村

■岡 泉

岡とは台地を意味し、泉とは地下水が地表に湧き出る土地のこと。かつて岡泉には丑沼、大日沼などがあり、付近の台地の絞り水が泉のように湧き出ていることによる地名か。

■美ヶ谷

「サナ」は製鉄にちなむことばと考えられる。大字白岡には製鉄に関する「タタラ山」という地名もあり、製鉄が盛んな土地だったようだ。「谷」は湿地・低地を意味する。

■千駄野

地味が悪く、江戸時代の貢租は茅が千駄に過ぎなかったといわれる。野は草木の生えた広い平らな土地の意。

■小久喜

「クキ」は小高い場所で、薪や柴を採集する場所という意味。市内の寿楽院は高台に位置し、山号を「太高山」という。

■上野田&下野田

「ノダ」とは台地の耕地である。野田が上・下に分かれたのは江戸の享保年間と考えられる。

■爪田ヶ谷

「ツメ」とは「ツマ（隅の意）」がなまったものと考えられる。この地が百間領の隅に位置していたことからの命名と推測される。

■太田新井

寛永5年（1628）以前は上新井と呼ばれていた。太田は中世の太田庄（現在の北川辺町から岩槻市に及ぶ範囲）のこと。この地で新しく開発された地ということから命名されたと考えられる。

■彦兵衛

江戸時代にこの地を新田開発した2人（彦兵衛と新平）の名を取り、明治22年まで彦兵衛新田と呼ばれていた。

しらおかまち
白岡町

■大字の由来

しのづむら
旧篠津村

■篠 津

「篠津」の由来は定かではないが、「津」とは船着場を意味し、その岸辺に篠が群生したことからと考えられる。江戸時代享保年間に、日光街道の春日部宿と中山道の鴻巣宿を結ぶ脇往還の交通の要衝として栄えた。

■野 牛

野牛は利根川の旧河道である「日川」の自然堤防上に位置し、柳の生い茂る土地だったことを表している。

■高 岩

日川の低地（現在の新白岡地区付近）から、高岩本村の天満神社付近の土地（台地）を見ると、かつては約2メートルの高低差があった。この地形から命名されたと考えられる。

■寺 塚

寺塚地内には、廃寺となった東照寺という寺院があった。この付近が小高い塚であったことからこの地名となったと考えられる。

■白 岡

41ページ（地名の由来）参照。

The names of the places such as old villages and ooaza usually have similar origins. Most name are taken from local history or geographic features.

